



歴史に学び研修の充実を

上高井教育会理事長 田中利和



〈研鑽の日々〉

第八次

の学習指導要領が、小学校で二〇一一年度、中

学校は二〇一二年度から完全実施されます。現在の指導要領が実施されてきた十年間を振り返ってみると、完全週五日制、ゆとり教育、十年研義務化、学校評議員会、学校自己評価、教員自己評価及び査定昇給制度、教員免許更新制度、等が次々と実施され、その根幹となる教育基本法・教育三法が改正されました。教育現場では、正に激動の十年間であったといえます。

来年度からは、現行のゆとり教育から一転、大幅な内容及び時数の増加となって実施されま

第212号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 田中利和
編集人 田中利和 編集委員 長子裕子
印刷所 須坂新聞社

えます。百年記念事業で刊行されました会誌『上高井教育のあゆみ』にその示唆を得た

百周年記念事業で、上高井教育の象徴として選定されたのが「不易流行」です。教育会館

による書が掲げられています。記念誌に、岡部義男理事長先生

が、次のように述べておられます。上高井教育が常に求め続けたことは、「新しさであり、流行であった」と思っています。そして、そのことが上高井教育の不易なるものを今日に築いてきたものと信じます。以来二十五

年経た現在も、脈々と受け継がれている不易なる部分と流行は、今後も上高井教育の柱として続いていくものと思えます。

上高井教育会が長年柱として大切に受け継いできたのは、全員参加の研究委員会です。教育課程とは一線を画して、学校の課題を大切に、実践していくものです。中心講師として、関西学院大学 益地憲一先生をお招きしての研究は四年目となり、ご期待を申し上げてお

ります。研究委員会と共に、教育会の重要な事業が同好会の活動で

す。昨年、学校の職員と共にアンサンブルを結成して、飛び入りで音楽同好会の発表会に参加させていただきました。自身の興味関心を大切に、気軽に参加できるのが同好会のよさだと思

います。隣地講習、作品製作、発表会等、いろいろな会があります。昨年度不参加であった先生方、年度途中からの参加も歓迎ですので、気軽にご参加をお願い

します。

現在上高井教育会は公益事業を目的とした社団法人です。二〇一三年からは今のままで存続できません。公益社団法人

或いは一般社団法人として出発することになりますが、十分検討し、方向を出していきたいと考えています。

〈公益法人化の問題〉

五月二十九日には、他郡の都合により引き受けました信教定期総集会在、メセナホールで盛大に開催されました。「同僚性」をテーマに講演、シンポジウムが進み、参加者の心に深く感動を与え

る総会となりました。内容が素晴らしいと、若い先生方に参加していただき、共有化できればと感じました。総会の運営・推進に協力

いただいた会員の皆さんに改めて御礼を申し上げます。

全十九校という小回りのきく上高井教育の明日を目指して、手を取り合って進みましょう。

〈信教定期総集會〉

発表者 豊洲小前田博展 教諭

表題 体験を失った学び方を考える

講演 講師 益地憲一 先生 関西学院 教授

演題 確かな学力のつくりと評価

第124回信濃教育会定期総集會

上高井大会(於須坂市文化会館)

教育会だより

4・1 選挙公示(役員選挙)

4・6 第1回代議員会第3回選挙管理委員会

4・7 教育会役員選挙(正副理事長、理事、監事)

4・8 第4回選挙管理委員会

4・12 第1回理事会

4・20 第2回代議員会(信教常任、代議員

4・21 補欠員、補充員の承認)

4・26 第5回選挙管理委員会

4・30 研究委員長会

4・21 第2回理事会

4・26 平成21年度会計監査会

4・30 研究総委員会・同好会発足於須坂少

5・7 研究委員会・同好会世話係・委員長・会長会

5・11 上高井教育研究会三団体発足会

5・12 臨時代議員会

5・13 新任者歓迎教育懇談会於迎賓館

5・21 研究推進委員会①

5・22 総会前日準備

5・29 教育会通常総会・講演会於須坂市

6・9 平成21年度会務報告並びに決算の承認

6・10 平成22年度事業計画並びに予算の承認

6・11 会員意見発表

6・25 発表者 豊洲小前田博展 教諭

6・10 表題 体験を失った学び方を考える

6・11 講演 講師 益地憲一 先生 関西学院 教授

7・22 演題 確かな学力のつくりと評価

確かな学力を育む 授業をめざして

研究委員会会長 小林 雅彦



上高井
教育会の
研究委員
会は、上
高井で同

じ教科・領域に携わる教師が、学校という枠を離れて、その教科・領域のもつ本質的な魅力を深め合い、教材研究や授業の実際を通して刺激し合い、触発し合う会です。さらに「何を教えるか」「いかに教えるか」「子どもにどう学ばれているか」を関連させながら深め、一人一人にとって真の学力となっていく過程を研究する会でもありません。

の大切さを説かれました。それは、何をどう教えるか、という研究だけでなく、子どもにとってどう学ばれているのか、という視点をもっと深めなさい、ということかと思えます。そして教師本位の授業から、学習者の主体的な学びが生まれる授業への転換を、具体的な授業を通して厳しく問い直していくことかと思えます。

本年度は、「確かな学力を育む授業の創造」をテーマにして四年目を迎えました。中心講師として関西学院大学教授、益地憲一先生のご指導を受け、五月の教育会総会では「確かな学力のとらえと評価」というタイトルでご講演いただきました。その中で益地先生は評価の問題に触れ、

来年度は小学校において、いよいよ新学習指導要領の完全実施となります。各委員会では「書く力」「問題解決力」「コミュニケーション力」「表現力」等の今日的な課題を視野に入れつつ、確かな学力の育成をめざし、それぞれに独自の工夫をしながら、実践力に結びつけた研究を進めてほしいと願っております。
(墨坂中)

- ① 目標の明確化
- ② 評価基準(規準)の具体化
- ③ 個人差を踏まえた評価
- ④ 評価の時期と役割への意識



本校の中核活動

高甫の伝統野菜「八町きゅうり」

— 高甫小学校 —

高甫地区には、信州の伝統野菜に認定されている「八町きゅうり」が栽培されていた。八町きゅうりは、昭和二十年代始めに高甫地区内の関野さんが育成された。皮が薄く肉厚で甘みがあって、人気が高まったが、果樹栽培が主流になり、栽培数が減ってきていた。復活を目指し、五年前に「八町きゅうり研究会」が発足し、普及に努めるようになった。

高甫小では地域の伝統文化を学び、守っていくこうと考え、八町きゅうり研究会、J A、市役所の農林課、柿の木の会などいろいろな方の協力のおかげで、学校東側の学校農園を利用して植えることになった。

五月二十日に、四年生三十六

名が苗植えをした。当日は、植え方の説明をしてもらい、一人一本ずつ苗を植えた。自分の苗に名札を取り付け、自分のきゅうりの生長を観察することにしていた。

テレビ局や新聞・雑誌の報道機関八社が取材に来てくれた。多くの報道機関や協力してくる方々の人数の多さに、子どもたちはびっくりしていた。

多くの子どもたちが新聞社やテレビ局にインタビューされた。インタビューされている様子を見ると、みんなきちんとした受け答えをしていた。

その前の日曜日(十五日)には柿の木の会の方およびPTAの方に参加してもらって、八町きゅうり用のビニールハウスを建ててもらった。休日にもかかわらず、多くの方に協力してもらい、立派なビニールハウスを作成していただいた。

苗を植えたときの子どもたちは次のような感想を持った。

○今日は八町きゅうりのなえうえをしました。カマランがたくさん来たので、びっくりしました。大きくなっていく育つように心をこめてがんばって、世話をしたいです。

○今日、八町きゅうりのなえうえをしました。テレビでうつすカメラがきました。うえてるところを写真でとられたり、インタビューされたりしました。きちんちよつしたけど、上手に言え



あつという間に丈が伸び、つるもたくさん出て、花もたくさん咲いた。大きく成長していく姿に思いを寄せながら、キュウリができるのを楽しみにしている子どもたちであった。

(堀田幸雄)

ました。八町きゅうりが、おおきくおいしくなればいいです。

子どもたちは、報道機関にびっくりしながら、きゅうりに思いを寄せていた。

植えてから一ヶ月過ぎると、丈も大きくなり、花も咲くようになった。大きくなった姿に子どもたちの感想も変わってきた。

○花が一つ咲いて、つぼみがたくさんついていた。つるも出てきた。やった。

○八町きゅうりが一つ小さいけれどあった。ここまで育ってくれてありがとう。もつと元気に育ってほしい。

○もう実がなりそう。僕の大きさはほぼ同じ。もつともつと大きくなれ。

我らの同好会

同好会会長 片桐 秀一



本年度も会員数五名の小世帯から二十七名の二世帯まで、十七同好会が、延べ二二九名の会員によって発足しました。

本教育会の同好会が、教育会の正規の事業として位置づけられたのは、昭和二十八年からであります。当時の記録をみると、八つの同好会で発足し、そ

の後統廃合を経て現在の十七の同好会に至っており、哲学・書道などは現在も引き継がれています。

当時僅かな補助金でありながら、中央の当代一流の講師を招いたり、自費で東京や京都の学者を訪ね教えを請うている一方、

「同好会は個人の任意参加である以上、学校の公の仕事を取り出して参加する気持ちにならない。——中略——しかし

一度も出席せず同好会の方々の顔を知らないとはあまりに情けない」と当時も今も参加については悩みが付きません。

当時と現在では、比べるべくもありませんが、今も定期的に講師をお招きし研修会が開かれているのを見ると、「教師としての自己研鑽」の精神が脈々と受け継がれていることをうれしく思います。

本年度も自己研鑽の場である同好会を大切にし、会費会員で終わらぬように積極的に参加してほしいと願っております。

(日野小)

地歴同好会の活動

地歴同好会長 玉井 広観

地歴同好会はほぼ一ヶ月に一度土曜日に活動しています。特に夏の夏期巡検では、一日をかけていろいろな所へ出かけています。この数年間で訪れた場所をあげてみます。平成十七年「信州の鎌倉 塩田平を訪ねる」、平成十八年「大笹街道を訪ねる 群馬県高崎市倉賀野まで」、平成十九年「武田氏の信濃進出の道筋を訪ねる 山梨県北杜市・佐久・諏訪方面」、平成二十年「足尾銅山・渡良瀬遊水池を訪ねる(群馬・栃木・茨

城方面)」、平成二十一年「直江兼続の足跡を訪ねる(新潟方面)」などです。特に大笹街道を訪ねた時は、須坂市の仁礼から菅平を経て利根川の支流が流れる高崎市の倉賀野まで行きました。江戸時代はそこから運河や他の川を経て江戸まで行っていたというものでした。江戸時代の壮大な交通網の一端を垣間見ることができました。また、足尾銅山を訪れた際には風が渺々と吹き抜ける広大な芦原と渡良瀬遊水池にた

たずみ、圧倒されるとともに、足尾銅山の公害がいかにか大きな被害をもたらしたか実感できました。この夏の巡検は最近話題になっている三遠南信方面を訪ねようと思っております。皆さんの参加をお待ちしています。(小布施中)



平成18年夏期巡検「大笹街道」を訪ねた時の写真

本校の宝(56) 墨坂中学校

『伝統の三活動』

本校は二年前、創立五十周年を迎えました。記念式典当日、様々な来賓のおことばの中に共通して登場するキーワードがありました。それが、『伝統の三活動』です。本校の伝統、それは三つあります。JRC活動(精神)・あいさつ・ひざつき四回の雑巾がけ清掃です。

もなっています。「中学生のあいさつに刺激され、会社内でもあいさつが広まってきています。」というお言葉もいただきました。

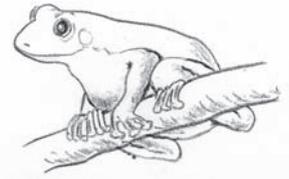


開校当時から県内の小中学校に先駆けてJRC活動に取り組みました。ゴミ拾い運動、ディサービスセンター訪問、フイリピンにタオルを送る運動等。今では多くの学校が取り組んでいるこのような活動を五十年前から続けているということが特筆すべき点です。先日、口蹄疫被害が甚大な宮崎県に蔓延予防用のタオルを送ろうという取り組みが行われました。たった数日間の回収期間にもかかわらず五百枚を超すタオルが集まりました。

「今朝、家の前を通る生徒さんたちが、おはようございますと明るくあいさつをしてくれてとても気持ちがいいんです。」こういう励ましのお言葉をいただきます。校内や生徒間、職員間のみにとどまらず、今や地域の皆さんに関心事と

ひざつき四回の雑巾がけ清掃。四回の理由は?①自分のため②校舎のため③先輩のため④まだ見ぬ後輩のためなのです。一人になって、気持ちを込めて床を磨く姿には感動します。「あいさつ、清掃がきちんとできなければ墨坂祭も成功しない。」と言われている文化祭も伝統の一つだと思っています。(今井一弘)

清涼談義



カット 豊丘小 峯村成美

「端午の節句 柏餅作り」

佐藤真理子

「修学旅行があけたらほっとする時間をとろう。」と考えていた時、知り合いの家の庭に柏の木を見つけた。「そうだ。一月遅れの端午の節句をやるう。」と思いい、知人に頼み、穫らせてもらった。

「どれが柏の木なの。」
「あの松の木の後ろじゃない。」
「本当だ。確かに柏餅の葉っぱだ。」
と、子どもたちは用意していただいた梯子に登り、夢中になって穫っていた。

そして柏餅作り。昨年何度か旬の料理を経験しているの、子どもたちは手際がいい。
「耳たぶ位の柔らかさかといっても、人によって柔らかさが違うよ。だれの耳たぶにする？」
という冗談も出る位、余裕がある。そして楽しみな餡包み。

「餃子の具を包む要領だね。」
と言っていたが包んでみるとなかなかきれいには包めない。あ

んこがはみ出したり、形が整わなかったり。それでも子どもたちは「柏の葉で包んじゃえばみんな一緒。」と、柏の葉で隠し(？)、最後に七分蒸してできあがり。

「端午の節句だよ。みんな健康で大きくなろうね。」
と言いながら二人二つずつおいしくいただいた。(小山小)



地域に生きる

井口正敏

学区の中心を県道四九九号線が走り、イチヨウ並木は地域を代表する景観になっている。しかし根元には雑草がはびこり、景観を損ねていた。

そこで、昨年度担任した六年生の学級で、「イチヨウ並木の整備」を実施した。現状を調査し、整備計画を練った。中には隣接する家庭で花を植えてある区画もあることから、分担し

て並木沿いの家庭にチラシを配り理解も得た。木の根元には、乾燥に強く花を長く咲かせているマツバギクを選んだ。学区にある『地域づくり推進委員会』と連携ができ、木の芽の撤去や苗の提供、苗植えの協力も得られた。全体の三分の一ほどの区画の草取り、土作り、苗植え、補修の活動に、子どもたちは汗を流して取り組んだ。作業中には地域の方から励ましや労いの声がかげられた。



(旭ヶ丘小)

編集後記

平成二十二年度、会報二二二号を発行し、無事会員各位にお配りすることが出来ました。特に玉稿をお寄せいただいた先生方に感謝申し上げます。

昨年度同様に「読みたくなる会報」を目指していきたいと編集委員会一同取り組んでいます。それぞれの職場で話題にしていたいただき、誌面で良かっ

たところ、改善点など率直なご意見が頂けたなら幸いです。何かありましたら各委員までご連絡ください。

- 委員長 古川 裕子(森上小)
- 副委員長 若松 享観(日滝小)
- 委員 木下久美子(日滝小)
- 委員 中村 竜太(井上小)
- 委員 原 朋野(栗ヶ丘小)
- 委員 青木 典子(小布施中)
- 委員 竹内 正墨坂(中)
- 委員 山崎 祐子(高山中)

平成22年度 県外視察者名簿 (敬称略)

学校名	氏名	視察目的	視察方面	実施時期
1 高山小	鈴木左代子	私立の小学校での学びの姿～英語教育を中心に～	東京方面	10月下旬
2 小山小	松澤裕子	学校カウンセリング	関東	2学期
3 "	本山久美子	障害者の就労	栃木方面	7月又は8月
4 日滝小	関谷 敏	新CS実施に向けて	東京(筑波大附属小)	2月
5 井上小	小林理恵	声づくり、発声、響きづくり	東京	未定
6 高甫小	駒澤信二	特別支援教育	東京	2学期
7 "	添谷里絵	秋田県独自の学習指導、家庭学習の取り組ませ方	秋田県	未定
8 "	藤澤真弓	人間社会を生きる子どもが育つ学校	新潟方面	6月
9 旭ヶ丘小	中澤雅子	第6回ドラマサークルフォーティーチャーズ研修	東京	8月
10 仁礼小	遠藤和樹	子どもたちの意欲を引き出し、主体的に活動するための指導を求めて ～学び合いの育成～	関東方面	7月～9月
11 豊丘小	横澤理恵	児童英語指導法ワークショップ	名古屋	6月
12 高山中	鬼石喜明	学びの共同体、グループ学習	静岡県	11月頃
13 "	新井孝之	体力向上、技能、戦術面での研修	東京方面	8月頃
14 相森中	飯泉大輔	学びの楽しさを味わい、わかる喜びを体験できる社会科学習	栃木県	11月